

# 生 活 科



【授業改善に向けて】 ----- 生活 1

【学習指導要領改訂の趣旨を生かした生活科の実施のために】 ----- 生活 2

【実践事例1】 ----- 生活 3

第1学年 単元名「なつとなかよし」

【実践事例2】 ----- 生活 8

第2学年 単元名「うごくうごく わたしのおもちゃ」

# < 生活科 >

## 【授業改善に向けて】

### 1 主体的・対話的で深い学びについて

生活科においては、体験的活動と表現活動を相互に繰り返しながら、児童の思いや願いを実現していくプロセスの中で、学習活動を充実させていくことが重要である。これまでの研究においても児童の豊かな体験や活動から生まれる気づきを大切に、その気づきの質の高まりによって、さらに学習が充実したものになると考えてきた。このことは「主体的・対話的で深い学び」を実現するために大切なことである。

また、新学習指導要領では、生活科の特性に応じた「見方・考え方」を「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関係付け、工夫、試行、予測することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること」とし、それを働かせて自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成していくことが大切であると示されている。

以上のことを踏まえ、これまで取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」の視点を継承しつつ、以下の3点から学習・指導の改善及び充実を図っていきたいと考える。

(1)「主体的な学び」では	学習活動の成果や、表現し合う活動の充実・振り返りにより得られた自信が、新たな活動に生かし挑戦してみようとする学びに向かう力を高めることにつなげることができるようにする。
(2)「対話的学び」では	対象と直接関わり、そのやり取りを通して、感じ、考え、気付いたことを伝え合う交流の中で、新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりするなど、自己の考えを広めることができるようにする。
(3)「深い学び」では	「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動から気付いたことをもとに考え、「対話的な学び」を通して気付いたことを実感の伴った言葉にして表現したり、様々な事象と関連付けしてとらえたりすることができるようにする。

### 2 授業改善の視点

#### <視点1> 「主体的な学び」を実現させるための課題設定や伝え合う活動の工夫

- 児童の興味・関心を喚起し、学習意欲を高めることができる課題設定の工夫
- 表現を通して、自らの成長や変容に気付くことができる伝え合う活動の工夫

#### <視点2> 「対話的な学び」を実現させるための学び合う活動の工夫

- 対話的な学びにつながる発問や意図的指名の工夫
- 他者と交流しながら思考することができる学習形態や場の工夫

#### <視点3> 「深い学び」を実現させるための気づきをもとに関連付けて思考する活動の工夫

- 様々な事象との関係に気付くことができる振り返りの工夫
- 自分の考えの深まりが分かるワークシートの工夫
- 学びの過程が分かる板書や掲示、ファイル等の工夫

## 【学習指導要領改訂の趣旨を生かした生活科の実施のために】

### 1 移行措置の内容

生活科は、平成 30 年度及び平成 31 年度の第 1 学年から第 6 学年までの指導に当たっては、現行小学校指導要領第 2 章第 7 節の規定に関わらず、その全部又は一部について新学習指導要領第 2 章第 7 節の規定によることができる。

### 2 新学習指導要領で実施する場合の改善点と留意点

#### (1) 改訂の基本的な考え方

生活科においては、言葉と体験を重視した前回の改訂の上に、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年の各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通じて育成する資質・能力（特に「思考力・判断力・表現力等」）が具体的になるようにした。

#### (2) 実施上の留意点

生活科は、目標や内容が 2 年間まとめて示してあるので、現行の学習指導要領との関連を明確にした上で実施すると共に、全面実施の年度を見通した、適切な指導計画を作成して指導する。

#### (3) 目標の改善

具体的な活動や体験を通じて、「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを明確化し三つの柱で整理した。

- 「知識及び技能の基礎」に関する目標
- 「思考力、判断力、表現力等の基礎」に関する目標
- 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

#### (4) 学習内容・学習指導の改善・充実

##### ① 内容構成の改善

具体的な活動や体験を通して学ぶとともに、自分と対象との関わりを重視するという特質の基に、3つの階層及び9つの内容に整理した。

- 第 1 の階層 「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」  
(1) 学校と生活 (2) 家庭と生活 (3) 地域と生活
- 第 2 の階層 「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」  
(4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び  
(7) 動植物の飼育栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い
- 第 3 の階層 「自分自身の生活や成長に関する内容」  
(9) 自分の成長

##### ② 学習指導の改善・充実

ア 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善、低学年の全ての教科との関連を図ること、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続、特に小学校入学当初における生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示するとともに、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫について配慮した指導を行うようにする。

イ 校外活動を積極的に取り入れながら、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図る。

＜身近な生活に関わる見方・考え方＞

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関係付け、工夫、試行、予測することなど（「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの多様な学習活動）を通して、自分自身や自分の生活について考えること。

#### (5) 指導計画作成上の留意点

- 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにする。
- 幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、幼稚園教育要領等において示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとしながら、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなど（スタートカリキュラム）の工夫をする。
- 動物の飼育や植物の栽培などの活動は 2 学年にわたって取り扱い、動物や植物への関わり方が深まるようにする。

# 【実践事例 1】第 1 学年 単元名 なつとなかよし

## 1 単元の目標

- 夏の自然に関心をもち、夏の自然を利用してみんなで楽しく遊ぼうとする。  
(生活への関心・意欲・態度)
- 身近な自然やものを利用した遊びを考え、友達と比べたり試したりしながら気付いたことや楽しかったことなどについて、素直に表現することができる。  
(活動や体験についての思考・表現)
- 夏の自然の様子や遊びを作り出す面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。  
(身近な環境や自分についての気付き)

## 2 単元の展開にあたって

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとする。」を基に設定した。身近な自然が、夏にはどう感じるのかを味わわせるため、「水遊び」を設定し、その中でも児童が身近な道具を使って遊べる「水でっぽう遊び」と「シャボン玉遊び」を取り上げる。夏ならではの「水」の心地よさと遊ぶ活動を十分に関わらせることができる単元である。

児童はこれまで、「学校探検」や「あさがおの栽培」、そして「なつとなかよし」の「公園遊び」や「水でっぽう遊び」で、絵や絵日記、観察カードによる表現活動を行ってきた。少しずつ自分の考えを文に表わせるようになり、短いながらも友達と遊んだ楽しさや友達の良さを表現できるようになってきた。しかし、友達からのアドバイスを素直に聞き入れたり、良さを見つけた自分の成長に気付いたりという深い学びにまでは至っていない。児童に幼児期のシャボン玉遊びの経験の聞き取り調査をした結果、自分でシャボン玉液を作ったりストローを工夫したりしたことのある児童は28名中8名であった。シャボン玉遊びを経験していても、液や道具を自分達で工夫して作るのではなく、用意されたもので遊んできた児童が多いことが分かった。

1年生の段階において、友達のアドバイスを受け入れたり、友達の良さを素直に認めたりするためには、まず相手と自分の意見を比べて聞き、どこが共通するのか、どのような点が違うのかななどを教師が関連付け、視点を明示することが大切であると考え。そこで今回は、幼児期や夏休み中の生活体験をもとに、シャボン玉遊びを工夫するという課題を設定し、遊びの中で見付けたり、比べたり、たとえたりして生まれた気付きを取り上げ、共通点や相違点を関連させてコーディネートし、共有化した上で友達の良さや自分の成長に気付かせていきたい。また、固形の石鹸を削って「シャボン液」を作り、物を「削る」「水に溶かす」「かきまぜる」ことを体験させ、試行錯誤の中で何度も繰り返し自然事象と関わり、何度も挑戦することで、事象を注意深く見つめたり予想を確かめたりするなどの理科の見方・考え方の基礎も養っていきたい。

### 〈視点1〉「主体的な学び」を実現させるための課題設定や伝え合う活動の工夫

- 児童が自分の思いや願いに基づいて身近な自然とふれあい、自ら働きかけられるような課題設定の工夫をする。
- 相手意識(幼児や異学年交流、地域の人々)・目的意識を明確にもたせた伝え合い、交流の場を工夫する。

### 〈視点2〉「対話的な学び」を実現させるための学び合う活動の工夫

- 活動の中での児童の見取りをもとに意図的指名の構想を立て、全体での共有の場で生かしていく。
- 児童の気付きに基づき、共通点や相違点を共有化することにより、関連が分かるように様々な考えをコーディネートしていく。

### 〈視点3〉「深い学び」を実現させるための気付きをもとに関連付けて思考する活動の工夫

- 気付きを確かなものとしたり新たな気付きを得たりするため、「見付ける」、「比べる」、「たどる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を重視する。
- 自分を振り返って気付いたことや思いなどを残すことで、自分の成長に気付くことができるように簡単な絵日記や学習カードを工夫する。

### 3 単元の指導計画（総時数 11 時間）

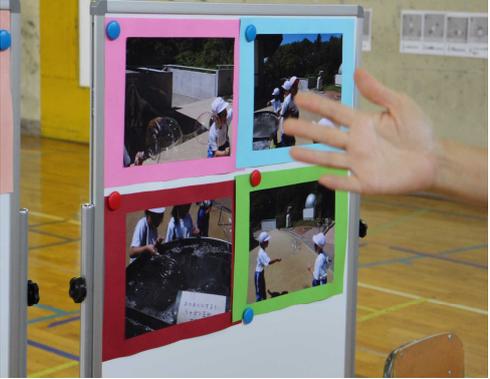
（第1次：なつのこうえんであそぼう⑤ 第2次：みずでっぼうであそぼう② 第3次：しゃぼんだまであそぼう④）

時間	主な学習活動・内容	評価規準	授業改善の視点
1	○ 身近な公園や行ってみたい公園について話し合う。	身の回りの公共施設である公園に関心をもち、知っている公園について伝え合おうとしている。 【関心・意欲・態度】	近所の公園や知っている公園について話し合い、みんなで公園に行って遊ぶ活動への意欲化を図る。 〈視点1〉
2 ・ 3	○ 安全に気を付けて、身近な公園まで歩いていき、公園で遊ぶ際のルールやマナーを確認しながら、遊具や自然物を使って、みんなで楽しく遊ぶ。	公園の利用の仕方を考えながら、諸感覚を使ってみんなで楽しく遊んでいる。 【思考・表現】	活動後の学習カードの記入において、だれとどんな遊びをしたのか記入させ、夏の公園で仲良く遊べた自分と、違う遊びをしていた友達のよさに気付かせる。 〈視点3〉
4 ・ 5	○ 公園に行くと、草花や樹木、虫などの様子を観察したり、草花や樹木を使って遊んだりする。	諸感覚を使って、夏の草花や虫を観察したり、夏の草花で工夫して遊んだりすることを通して、季節や夏の動植物の特徴に気付いている。 【気付き】	春に見つけた植物や虫と違うところや、同じものでも前と比べて様子が違うという自然に目を向けさせながら活動させる。 〈視点3〉
6	○ 身の回りにある空き容器を使って、水鉄砲や水遊びを楽しむ。	友達と仲良く身近な材料を使って水遊びをしている。 【関心・意欲・態度】	水遊びの後に話し合いをし、どんな遊びをしたのか、またどんなことに気付いたのかを共有化して次回の活動への見通しをもたせる。 〈視点1〉
7	○ 空き容器を使って、道具を加えたり押し方を工夫したりして、水遊びを工夫する。	水を使って楽しく遊べることや、遊びを工夫する面白さ、水の性質や不思議さや面白さに気付いている。 【気付き】	活動後の振り返りカードで、前よりも工夫できた自分や工夫していた友達を伝え合うことで自分や友達のよさに気付かせる。 〈視点3〉
8 本 時	○ みんなでシャボン液を作りながら、シャボン玉遊びを楽しむ。	シャボン玉液を作り、遊ぶことを通して、水の性質の不思議さに気付いている。 【気付き】	児童の気付きに基づき、共通点や相違点を共有化することにより、関連性が分かるよう全体の考えをコーディネートしていく。 〈視点2〉
9 ・ 10	○ 作ってみたいシャボン玉ができる道具を工夫して作り、遊ぶ。	作りたいシャボン玉ができるよう、友達と比べたり繰り返し試したりしながら工夫して道具を作っている。 【思考・表現】	「試す」、「見通す」、「工夫する」活動を重視し、それによる気付きを取り上げることで、自覚化された新たな気付きにつなげていく。 〈視点3〉
11	○ 作った道具でシャボン玉遊びを楽しんだり、幼稚園児に向けてのアドバイスカードを書いたりする。	シャボン玉を工夫して作り、自分や友達のよさに気付かしながら、楽しく身近な自然と関わっている。 【気付き】	自分の成長や友達の成長に気付かせた上で、相手意識をもたせた伝え合いを設定する。 〈視点3〉

### 4 展開の具体例（8/11時）

○ 学習のねらい

シャボン玉液を作り、遊ぶことを通して、水の性質の不思議さや面白さに気付くことができる。

主な学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>(1)夏休みのシャボン玉遊びや、幼児期のシャボン玉遊びを振り返り、めあてをつかむ。</p>  <p>「夏休みの友」での体験のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなシャボン玉を作ったか。(確認)</li> <li>・こんなシャボン玉ができそう(見通し)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうすれば「しゃぼんだま」ができるかな？</p> </div> <p>(2)見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっけんをけずって、みずにいれたよ。</li> <li>・「だいどころのせんざい」をつかえばできるんだけど…。</li> </ul> <p>2 シャボン玉液を作り，試しながらシャボン玉遊びを楽しむ。</p> <p>(1)約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所（作る場所・試す場所）</li> <li>・道具の使い方</li> </ul> <p>(2)試しながらシャボン液を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっけんをスプーンで削る。</li> <li>・おろし器で石鹼を削る。</li> <li>・水に入れて溶かす。</li> <li>・水に入れてかき混ぜる。</li> <li>・なかなかシャボン玉にならない。</li> <li>・〇〇さんは，うまくできている。</li> <li>・ぼくのほうが，大きいシャボン玉だよ。</li> </ul>  <p>試行錯誤しながら活動する児童</p>	<p>5</p> <p>20</p>	<p>○ 幼少期や夏休み中のシャボン玉遊びを振り返らせ，幼稚園児に向けてシャボン玉遊びのこつを手紙で知らせることを意識させ，活動への意欲を高める。</p>  <p>校外学習でのシャボン玉遊びの振り返り</p> <p>○ 本時は固形石鹼を使うことを提示し，こうすればできそうだという児童の予想を取り上げ，見通しをもつて活動に取り組めるようにする。〈視点3〉</p> <p>○ 試行錯誤しながら道具作りができるよう，道具や種類の違う材料を用意し，置く場所も分かりやすく設置することで活動に取り組みやすくする。</p> <p>○ 児童が試行錯誤しながらどんな気付きをしたのか，他の児童との共通点や相違点などを中心に見取る。〈視点2〉</p>  <p>協力して活動する児童</p> <p>○ 活動の中で児童を見取り，意図的指名の構想を立て，全体での共有の場で生かせるようにする。〈視点2〉</p> <p>○ 意欲的に活動している児童には称賛しながら，さらに工夫をしたり友達にアドバイスをしたりするよう促す。</p> <p>※ 水の性質の不思議さに気付きながら自分でシャボン液を作り遊ぶことができている。（活動の様子・つぶやき）</p>

- 3 学級全体で共有する。  
 (1)試してみても気付いたことを伝え合う。  
 (2)まとめをする。

せっけんをけずって、とかしてから、  
 すとろうでふいたらできる。



共有したことの板書

- 4 本時を振り返る。  
 (1)自分の発見や、友達のシャボン玉と比べて気付いたことなどの感想を発表する。  
 (2)本時を振り返って分かったことや感想などを学習カードに記入する。  
 (3)次時の活動を知る。

- 1 5 ○ 児童の気付きを共有し、コーディネートしながら、共通点、相違点などを関連付けていく。 <視点2>



気付いたことの発表

- 聞いている側は、自分の体験や気付きと「どこが違うか」「どこが同じか」比較しながら聞くようにさせる。

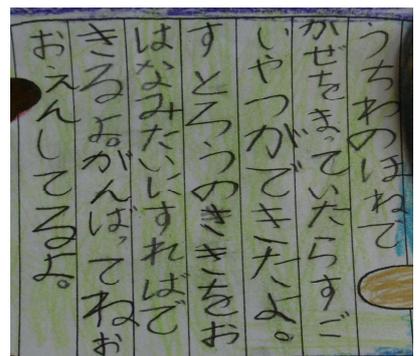
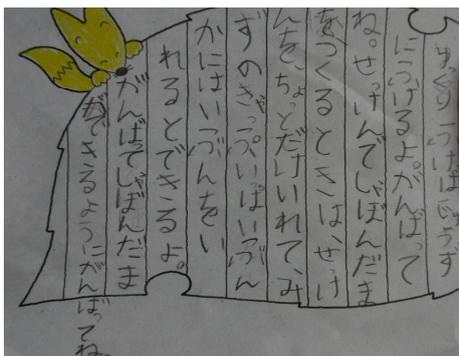
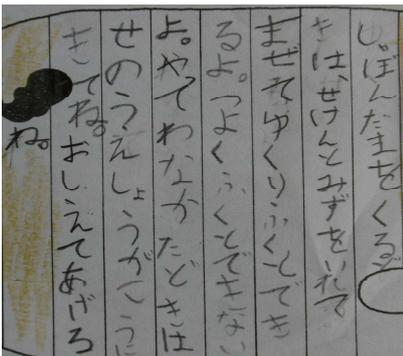
<視点3>

- 5 ○ 発表を聞いて気付いたことや体験して分かったことなどを発表させる。  
 ○ 本時を振り返り、カードに「見付けたこと」や「できるようになったこと」「友達のすごいところ」などを記入させ成長を自覚させる。 <視点3>

5 実際の考察（成果：○ 課題：●）

<視点1> 「主体的な学び」を実現させるための課題設定や伝え合う活動の工夫

- 「幼稚園の子どもたちに、シャボン玉の遊び方を教えてあげよう。」という相手意識及び目的意識をもたせて活動を行ったことで、意欲的に取り組むことができた。体験して自分が成功したことや失敗したことを幼稚園児に伝えようという意欲が、単元の最後まで継続していた。
- 児童の活動を予想し、使用する道具など学習環境を整えておいたために、児童は迷うことなく活動に入ることができた。特に説明しなくても見ただけで道具の使い方を考えたり、友達の活動を参考にして取り組んだりするなど、自分なりの方法で試行錯誤しながら主体的にシャボン玉作りに取り組む姿が見られた。
- 使った道具を片付ける時間を取ったために、活動の時間が短くなってしまい、友達と比べたりアドバイスをしたりという活動が十分できず、教師側が期待した友達との関わりに関する気付きが少なくなってしまう。ねらいや児童に身に付けさせたい力を考えながら、片付けは授業以外の時間で行うなど、重点を置くべき活動の時間を確保していく必要がある。



単元の最後に書いた幼稚園児に向けてのアドバイスの手紙

## 〈視点2〉「対話的な学び」を実現させるための学び合う活動の工夫

- 児童の気付きに基づき、共通点や相違点を共有化するために、「コーディネート図」を活用した。「授業スタンダード」（県教委）をもとに、問い返しや共有させるための働きかけを行ったことにより、スムーズに話し合いを進めることができたばかりでなく、それぞれの気付きやそのよさを具体的に理解しながら学級全体で共有することができた。
- 成功した経験だけを取り上げるのではなく、失敗した経験も取り上げて全体で共有したことにより、「○○さんのおかげでわかった。」「失敗は成功の基。」という意識が生まれ、失敗した子も満足して話し合いを終えることができた。
- 活動の中で一人一人をその子のベストなタイミングで見取ること、また、単位時間の中で全員を見取るとは難しい。毎時間全員を見取るという意識で臨むのではなく、「本時は何人、この活動は誰と誰」と決めるなど見取りの計画も立てながら、単元を通して全員を見取るように意識して授業に臨むことが必要である。

## 〈視点3〉「深い学び」を実現させるための気付きをもとに関連付けて思考する活動の工夫

- 気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするために「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの学習活動を重視した。ワークシートにも、これらの視点で活動するとよいことを明記し、気付きのヒントとすることで、児童は、自分の気付いたことに自信をもって話し合いに参加することができた。
- 本時では活動時間や振り返りの時間の不足から、「友達のよさ」「自分のよさ」について気付かせることが十分できなかつた。しかし、次時の活動で確認したり、ワークシートの振り返りに教師からの価値付けの言葉を入れたりするなどして補った結果、友達のよさに気付くことができ、自分のよさの発見まで繋げることができた。また、単元を通してワークシートを活用することで、友達のよさや、それを発見した自分の成長に気付かせることもできた。今後は、時間配分も含め、活動や振り返りの中で、「友達のよさ」「自分のよさ」について気付かせることができる有効な手立てをさらに工夫していきたい。

【方法】 T どうやら「しゃぼんだま」ができましたか？	【予想】 T 「けずる」のつづきがいえますか？	【予想】 T 「いれる」のつづきがいえますか？	【予想】 T 「まぜる」のつづきがいえますか？
C せっけんを、けずったらできました。	C せっけんみず（おゆ）にいれたら、できました。	C せっけんをみずにまぜたらできました。	C ストローでふいたらできました。
【補助】 T ○さんの方法をもう少し詳しく言えますか？			
C せっけんを、スプーンでけずりました。	C スプーンで2はいぶんいれました。	C ストローでぐるぐるまぜました。	C ストローでふりました。
C せっけんを「おろしがね」でけずりました。	C 白くなるまでいれました。	C まぜるとよくとけるからです。	C つよくふくと、われてしまうから、そっとふいたとおもいます。
考えを深めるための教師の問い返し			
【理由】 T どうして○さんは、せっけんをけずったのですか？	【理由】 T どうして○さんは、せっけんをいれたのですか？	【理由】 T どうして○さんは、せっけんをまぜたのですか？	【理由】 T どうして△さんは、ストローでそっとふいたのですか？
C せっけんが、とけやすいからです。	C せっけんは、しゃぼんだまのもとだから、みずにいれます。	C まぜるとよくとけるからです。	C つよくふくと、われてしまうから、そっとふいたとおもいます。
C こまかいほうが、とけやすいからです。	C けずると、しゃぼんだまをこまかくとれます。	C よくとけると、しゃぼんだまができます。	C つよくふくと、われてしまうから、そっとふいたとおもいます。
共有させるための教師の働きかけ			
【共感】 T ○さんが「けずった」気持ち分かりますか？	【共感】 T ○さんの気持ちが分かりますか？	【発見】 T ○さんのよいところはどこですか？	【発見】 T ○さんのよいところはどこですか？
C わかります。わたしもやりました。	C わかります。せっけんだけじゃ、しゃぼんだまができません。	C せっけんをまぜたところです。	C そっとふくとしゃぼんだまができるってびっくりです！

対話的な学び」を実現させるためのコーディネート構想図

めいじんに なるための



7かじょう

- ① どんどん ためてみよう。
- ② よそうしてからやってみよう。
- ③ ともだちや まえのときとくらべてみよう！
- ④ 「まるで○○みたい。」と たとえてみよう！
- ⑤ どんどん くふうしてみよう。
- ⑥ ともだちや じぶんのいいところを みつけよう。
- ⑦ ふりかえりをして つぎにいかそう。

新たな気付きを得るための視点

みつけた！ じぶんで だいはいけん！！	みつけた！ ともだちの だいはいけん！！	きょうの ふりかえり できるようにしたことつぎにやってみよう
せつけんをそのままいれちゃなくていいよ	ともだちがすぐしゃぼんだまをいれていた	せっけんみずをすくって
おおきかつのせつけんをけすってかんづにけすってかんづにいれちゃいいよ	ともだちがうちのほねをつかてすぐおあさいしゃぼんだまをつ	しゃぼんだまのぶさをせっけにいませないよ
はるくんがしゃぼんだまをつくらせてくれた	はるくんがしゃぼんだまをつくらせてくれた	しゃぼんだまのぶさをせっけにいませないよ

単元を通して振り返り（気付き）がわかるワークシート

（文責 菊地陽子）

## 【実践事例2】第2学年 単元名 うごくうごく わたしのおもちゃ

### 1 単元の見目

- 身近な物を利用して作った動くおもちゃや、その遊びに関心をもち、おもちゃランドを開いて、みんなで楽しく遊ぼうとする。(生活への関心・意欲・態度)
- 動くおもちゃを作り、おもちゃの動きを比べたり試したり遊びを考えたりして、自分なりに材料や遊びを工夫し、それを表現することができる。(活動や体験についての思考・表現)
- おもちゃの動きや遊び方を工夫することで、楽しく遊べるようになるというおもしろさや、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。(身近な環境や自分についての気付き)

### 2 単元展開にあたって

本単元では、学習指導要領の内容(6)「身近にあるものを使って遊ぶ活動を行う」と(8)「身近な人々と伝え合う活動を行う」という内容を組み合わせ、身近にある物を利用して動くおもちゃを作る活動を行う。この教材は、身近にある物を使って動くおもちゃを作りながら、動きを試したり、友達と一緒に試行錯誤したりしながら、作り方や動かし方を教え合うことができる教材である。また、よりよく動くように改良しながら、動くおもちゃのおもしろさや不思議さを実感できるとともに、遊びを工夫しながら楽しく活動することができる教材である。

本学級の児童は、学級でまとまって何かを行うことはすぐにできるが、2年生になり自己主張が見られるようになった分、意見がぶつかることも多くなった。物を作ることが好きな児童が多く、休み時間に自分の作品を使って遊ぶ児童が見られるなど、自分の作った作品に対して、思い入れの強い児童がいる。また、一人で黙々と作る活動を行う児童が多いので、本単元での活動を通して、友達と会話をしながら、自分の考えを深めることができることを実感し、さらに友達と作る楽しさを感じるようにさせたい。そして、昨年度、2年生と一緒に活動する中で、2年生に優しくしてもらったことを思い出し、2年生らしく1年生のお世話をしあげたいと強く思っている児童も多く、おもちゃができあがったら1年生に見せたいという気持ちも感じられる。1年生を招待しておもちゃランドを開くという目的意識を高めながら活動を展開したいと考える。

本単元では、ゴムや空気などの動力源で動くおもちゃのおもしろさに気付かせたいと考える。また、新学習指導要領で3年生の理科の学習内容に加わる音についても、おもちゃに組み込んでいきたい。おもちゃを作る活動を通して、友達に見せたり、作り方のコツを教えあげたりするなど、友達と対話をしながら活動をさせたい。また友達のおもちゃの動きを見て、自分のおもちゃの動きと比べ、よいところを自分のおもちゃに生かすなど、友達と活動するよさを学んでほしいと考える。本時では、友達と一緒に比べたり試したりしながら遊ぶことを通して、自分の考えを深めていくことができるように学習形態や場を工夫していく。児童たちに「高く」「遠くに」というポイントを与え、今までに作ったおもちゃを工夫しながら、作り直したり、友達と競わせながら遊んだりすることによって、対話が生まれる活動にしたいと考える。友達と話してわかったことや考えたことを、これからの活動に取り入れることができるようにしたい。また、友達と一緒に活動する楽しさを味わわせることで、人と積極的に関わる力となるようにしたい。

#### <視点1> 「主体的な学び」を実現させるための課題設定や伝え合う活動の工夫

- 意欲を持続しながら活動できるよう、単元を通じた課題設定を行う。
- 気付きを一人一人に表現させ、相手意識をもって交流活動を行うことができるよう、全体で共有できる場の設定を行う。

#### <視点2> 「対話的な学び」を実現させるための学び合う活動の工夫

- ワークシートを活用し、課題や感想を事前に把握することによって、話し合いがスムーズにいくように発問や意図的指名の工夫をする。
- 友達と一緒に比べたり試したりしながら遊ぶことを通して、思考を促し、自分の考えを深めていくことができるような学習形態や場の工夫をする。

#### <視点3> 「深い学び」を実現させるための気付きをもとに関連付けて思考する活動の工夫

- 本時での気付きをより確かなものにするために、本時の活動を振り返る場を設定する。
- 次時への目標を見付けることによって意欲を持続し、次時へ向かうことができるようなワークシートの工夫をする。
- 学習の足跡を累積したり、掲示したりすることによって活動に生かす工夫をする。

**3 単元の指導計画（総時数 11 時間）** 図画工作 2 時間「ときめきコンサートホール」 2 時間「ストローでこんにちは」

（第 1 次：うごくおもちゃを作ろう⑥ 第 2 次：もっとくふうしよう③ 第 3 次：おもちゃランドをひらこう②）

時間	主な学習活動・内容	評価規準	授業改善の視点
1 ・ 2	○ 動くおもちゃを作るための材料や作り方について話し合う。 ○ 動くおもちゃを作る。	身近にある物を利用した動くおもちゃ作りに関心をもって遊ぼうとしている。 【関心・意欲・態度】	身近にある物を利用しておもちゃを作ることができることを知らせ、おもちゃを作る活動への意欲化を図る。 <視点 1> 次時の活動へとつなげるために、活動の様子を振り返る場を設定する。 <視点 3>
3	○ 音を楽しみながら遊ぶおもちゃを作る。	身近な物の中から、使ってみたい物を見付け、おもちゃ作りをしている。 【思考・表現】	おもちゃの動きを友達と試したり、工夫して遊んだりする活動を繰り返し設定する。 <視点 2>
4	○ 音を楽しみながら遊ぶおもちゃを工夫して作る。	比べたり試したりしながら、おもちゃのおもしろさを知り、友達と関わって作ったり遊んだりしている。 【思考・表現】	自分のおもちゃ作りに生かすために「よく聞こえる音」「おもちゃに似合う音」という視点を与え、活動させる。 <視点 2>
5	○ 風や空気を使って動くおもちゃを作る。	身近な物の中から、使ってみたい物を見付け、おもちゃを作ろうとしている。 【関心・意欲・態度】	おもちゃの動きを試したり、友達と工夫して遊んだりしながら、楽しい遊び方を見付けさせる。 <視点 2>
6	○ 風や空気を使って動くおもちゃを工夫して作る。	風や空気を使って動くおもちゃを作ることの楽しさや、遊びを工夫するおもしろさに気付くことができる。 【気付き】	自分のおもちゃ作りに生かすために「たくさん」「高く」「遠くに」という視点を与え、活動させる。 <視点 2>
7	○ ゴムを使って動くおもちゃを作る。	身近な物の中から、使ってみたい物を見付け、おもちゃ作りをしている。 【思考・表現】	ゴムの性質を生かしておもちゃを作ったり、動きを試したりしながら、よりよく動くおもちゃや遊び方を考えさせる。 <視点 2>
8 本 時	○ ゴムを使って動くおもちゃを工夫して作る。	比べたり試したりしながら、おもちゃのおもしろさを知り、友達と関わって作ったり遊んだりしている。 【思考・表現】	友達と一緒に比べたり試したりしながら遊ぶことを通して、思考を促し、自分の考えを深めていくことができるような学習形態や場の工夫をする。 <視点 2>
9 ・ 10	○ お気に入りのおもちゃを選び、おもちゃランドを開く準備をする。 ○ 1 年生を招待しておもちゃランドを開く。	遊びを工夫したり、遊びの約束やルールを考えたりしながら遊びを創り出したりしている。【思考・表現】	1 年生と一緒に遊ぶ活動を行い、相手意識をもって、おもちゃのよさや工夫、遊び方を伝える活動を行う。 <視点 1>
11	○ 動くおもちゃ作りを振り返り、友達と関わって作ったことや遊んだことを表現する。	友達と関わって遊ぶ楽しさ、友達のよさや自分との違いに気付いている。 【気付き】	単元全体の活動を振り返ることによって、自分の生活に生かそうとする気持ちにつなげる。 <視点 3>

**4 展開の具体例（8/11 時）**

○ 学習のねらい

比べたり試したりしながら、おもちゃのおもしろさを知り、友達と関わって作ったり遊んだりすることができる。

主な学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
<p>1 本時の課題をとらえる。</p> <p>(1)前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃの紹介</li> <li>・おもちゃの動きの問題点</li> </ul> <p>(2)めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もっとよくうごくようにするには、どうしたらいいのかな？</p> </div> <p>2 課題を追究する。</p> <p>(1)よく動くようにするための方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴムをしっかりと張って、付けよう。</li> <li>・ゴムの数を増やしてみよう。</li> <li>・ゴムをしっかりと巻こう。</li> </ul> <p>(2)動きを確かめながら作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃが進むコースを作ろう。</li> <li>・どのくらい跳んだか測ってみよう。</li> <li>・友達と比べてみよう。</li> <li>・どうやってゴムを付けたの？</li> <li>・やり方を教えて。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p><b>試し遊びをする児童</b></p> </div> <p>3 今日の活動を振り返り、本時のまとめをする。</p> <p>(1)うまくいったところや友達との関わりについてワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よかったところ</li> <li>・友達と話したこと</li> </ul> <p>(2)全体で意見を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えてもらったらできたよ。</li> <li>・友達のおもちゃを見たらできるようになったよ。</li> <li>・ゴムのとめ方を教えてあげたよ。</li> </ul> <p>(3)次時の学習について知る。</p>	<p>5</p> <p>30</p> <p>10</p>	<p>○ 児童の作品を提示し、どうしたらよく動くかと投げかけることで、活動への意欲や見通しをもてるようにする。</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>自分のおもちゃを動して見せる児童</b></p> </div> <p>○ ワークシートなどを活用し、児童が作りたいおもちゃや工夫したいところ、友達との関わりなどについて把握しておくことによって意図的指名に生かし、児童の思いや考えを全体に広めたり、互いに教え合ったりできるようにする。</p> <p style="text-align: right;">〈視点1・2〉</p> <p>○ 同じおもちゃを作っている児童同士を同じグループにし、「高く」「遠くに」というポイントを与え、友達と比べたり試したりしながら競争することにより、自分のおもちゃの作り方を再試行し、動きをよりよくする方法や遊び方を見付けることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">〈視点2〉</p> <p>○ 友達と動きを試すコーナーを設置することによって、自分のおもちゃの動きを確かめたり、そこで友達と話し合ったりすることができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">〈視点2〉</p> <p>※ 比べたり試したりしながら、おもちゃのおもしろさを知り、友達と関わって作ったり遊んだりしている。</p> <p>(活動の様子・つぶやき)</p> <p>○ 友達と関わって活動したことを書くようにすることで、友達と活動するよさに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 全体で活動を振り返る場を設けることによって、友達のおもちゃについても考えを深め、次の活動に生かそうとする気持ちをもつことができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">〈視点3〉</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>振り返りをワークシートに記入する児童</b></p> </div>

## 5 実践の考察（成果：○ 課題：●）

### 〈視点1〉「主体的な学び」を実現させるための課題設定や伝え合う活動の工夫

- 本時の課題をとらえる場面において、前時までの活動の様子や振り返りのワークシートから取り上げる児童の気付きなどを決めておき、意図的に作品を紹介させて工夫したいところを発表させたり、全体で工夫したいところを話し合ったりすることにより、本時の活動への意欲化を図った。全体の前で紹介した友達のおもちゃについて考えたり、全体で工夫したいところを共有したことにより、「もっと動くようにするにはどうしたらいいか」という課題意識を高めることができた。
- 単元を通して意欲を持続しながら活動できるよう、1年生を自分たちの作ったおもちゃランドに招待して喜んでもらおうという課題設定を行った。児童の中には、具体的なイメージがもてなかったり、自信がなかったりしたせいか、なかなか意欲的に活動することができなかった児童もいた。しかし、自分のおもちゃができて上がると、「もっと〇〇したい」など活動への意欲が高まった姿が見受けられた。今回のような目的意識や相手意識をもたせた課題設定は意欲化を図る上で効果的ではあったが、1年生との交流活動について、より具体的にイメージをもたせる工夫や、招待する側としての自信をもたせるための支援も必要であると感じた。

### 〈視点2〉「対話的な学び」を実現させるための学び合う活動の工夫

- 毎時間ワークシートを活用し、友達との関わりについて振り返る活動を行った。友達から教えてもらったことや、教えてあげたことなどをワークシートから担任が把握しておくことで、次時の導入で意図的指名を行い、話し合いをスムーズに進めることができた。
- 同じおもちゃを作っている児童同士を同じグループにして活動を行わせることで、作り方について会話をする姿が見られた。友達とおもちゃの動きを比べたり試したりしながら競争して遊ぶことを通して、よく動くようにおもちゃを改良したり、工夫したりすることができた。
- おもちゃの動きを試す場所を設置し、そこで動きを試したり、そこに試しに来た友達と競争したりすることができるように場の設定をした。自分の思い通りに動くように繰り返し試す姿が見られた。
- 友達と会話しながら活動する児童がいる反面、1人で活動に没頭する児童もいた。「〇〇さんが困っているから教えてあげて」と声をかけると、快く教えてあげる姿が見られたが、活動に夢中になりつつも、友達と話したり一緒に試し遊びをしたりする楽しさを味わえるように、見取りを生かしながら実態に応じた支援をさらに考えていく必要がある。



友達に作り方を教えてあげる児童

### 〈視点3〉「深い学び」を実現させるための気付きをもとに関連付けて思考する活動の工夫

- 本時の振り返りから、次の時間の目標を見付けることを繰り返し行った。本時では完成しなかったという児童にとっても、次の時間にまたやってみようという、意欲につなげることができた。
- ワークシートを学習の最後に毎時間記入することで、本時の活動について振り返ることができた。友達との関わりについても観点を示しておくことで、「次は友達に聞いてみようかな」と振り返る児童がいた。また、振り返りを累積することで、自分の成長に気付いたり、できたことに喜びを感じたりすることができた。
- 後片付けの後に本時の活動について振り返る場面を設定した。ワークシートに記入させながら本時の活動についての振り返りを行ったが、書くための十分な時間をとることが難しかった。今後は、振り返ったことを発表する場面で「どうして」の部分の補いその気付きを全体に広げ、次時につなげることができるようにしたい。また、「めあては達成できたか」についての振り返りでは、次時以降の支援に生かすために、「できた」「できなかった」ということ以外に、「どうやったら達成できたのか」「どうして達成できなかったのか」についても表現させたいと感じた。



本時の活動を振り返る児童

（文責 丸島祐子）